北九州芸術劇場 KITAKYUSHU PERFORMING ARTS CENTER
北九州市立 響ホール HIBIKI HALL

情報誌Q

つながる、見つかる

vol.69 2020.11 ~

CONTENTS

「記憶」をリレーする演劇

「Re:北九州の記憶」

UN云云かんぬん ― 響ホール篇

地域とアートのステキな関係 ― 大学生とともに、地域でコンサートをつくる

ピックアップ!STAGE&MUSIC

なぜ演じるのかー。

北九州芸術劇場プロデュース「彼の地」 ©重松美佐

表と裏のあいだに。

ナスの収穫に汗を流しながら素敵な笑顔を見せてくれたのは、劇団「飛ぶ劇場」の脇内圭介さん。仕事を選択する上での絶対条件は、演劇を続けられること。小学校の学芸会で演じたとき、自分の演技にみんなが笑い喜んでくれた。特別な経験だった。人を喜ばせたいー。その思いが演劇を続けるモチベーションだ。コロナ禍で舞台に立つ機会が失われ、演劇のない生活を想像したとき押し寄せた恐怖。舞台に立つことが出来ない人生は考えられない。再認識した自分の生き方。今は12月の公演に向けて、気持ちを切り替えている。ブレない生き方。それは急速に変化する時代の中、どんな状況も乗り越える力になるのかもしれない。



自然との対峙、それも心の栄養ー。

vol.69 2020.11



「記憶」をリレーする演劇。

北九州のまちには、ついつい人に自慢したくなるものがある。
旦過市場の美味しいモノ、都心から車で15分で手が届く野山や海。
そこに、このまちと人を描いた演劇「Re:北九州の記憶」も連ねたい。
コロナ禍にあいながらも9年目を迎えたロングラン企画が、
次に手渡そうとするものは何なのか―劇作家お二人に取材した。

取材・文／重岡美千代

インタビューが中止になった9年目の危機を越えて。

―放っておけば泡沫のように消えてしまう「記憶」。歴史のように写真や映像で残せないものを、演劇的手法を使って継承しようとする「Re:北九州の記憶」は、北九州芸術劇場が市民と共同で創作する演劇として取り組んできた全国的にも珍しい企画だ。まずは、市内に暮らす70~85歳の方を対象に、インタビュー協力者を公募する。その方たちを九州を拠点に活動する若手劇作家たちが取材し、伺ったお話をモチーフに脚色してオリジナルの戯曲を創りあげるのだ。さらに書き上げた作品をブラッシュアップする戯曲講座を重ね、公演までにかかる期間はおよそ1年。これまでの8年間でインタビューに協力してくれた高齢者は65名にのぼり、そこから74もの作品が誕生している。



穴迫 信一さん

しかし2020年3月、インタビュー協力者の10名は決まったが、予期せぬコロナ禍で高齢者の方と直接会うことが難しい事態に。4月から予定していた初顔合わせや、インタビューも中止せざるを得なくなった。9年目の危機―今年はインタビューなしで、これまでの経験から作家がテーマを考えて書くことになり、初年度から劇作家として関わってきた鵜飼秋子さんは、最初は戸惑ったという。

鵜飼　私がずっとやってきたのは、まず高齢者の方のお話を聴いて、それを私というフィルターを通し変換して、他者に伝わる物語にしていくこと。もはや自分の書きたい何かを内側から引っ張り出すのではなく、「誰かの人生を想って書く」ことが基盤になっていたんです。高齢者の方にインタビューする時は、起こった出来事よりも、その時に「何を感じたか」ということに寄り添います。その人と同じ経験は誰にもできないけれど、同じようなことを感じたことはあるかもしれない。そこに寄り添うことで、他者に伝わる物語になる、と思ったんです。でも、今回はそのインタビューができないことになって、また新たな転機をもらいました。今は「まち」にも人生があるんじゃないか、という切り口から、まちの人生を想う作品を書き始めたところです。総体である「まち」から、個である「人」にどうアプローチするか。個人の記憶からまちの姿が立ちのぼっていたこれまでとは逆方向からのチャレンジですね。

Re:北九州の記憶

―「Re:北九州の記憶」は、リレーのような演劇だ。インタビューで語られるまでは一個人の記憶だったものが、作家を介して創作劇になり、公演を観る人たちにバトンが渡される。それを受け取った観客は記憶のスイッチを刺激され、「私にもあった」「そんなことがあったなんて知らなかった」などと語り出す。終演後の観客がこれほど賑やかな作品は、他にはないだろう。

人の「記憶」が、まちのレガシー（遺産）になる。

―2020年度は、6名の若手作家がそれぞれの視点で戯曲を書き上げる。鵜飼さんと同じく初年度から参加している穴迫信一さんは、同年に自身の劇団「ブルーエゴナク」を旗揚げし、21歳の時からずっと劇団での創造と「Re:北九州の記憶」での執筆を併走してきた。

穴迫　10周年を目前にした9年目に、これまでを振り返って書けるのはいい機会をもらったと思いました。最初の頃は、高齢者の方の話を聞いて書くというオーダーと、自分の作風の挟間で硬くなってた時もありましたが、今はそれが合流してきた感じ。20代半ばから、自分の外側にあるものからどう作品にしていくか、と考えるようになったのは、この企画に関わった経験が大きかったと思います。僕は過去の出来事よりも、その人の現在のありように興味を惹かれます。記録ではなく「記憶」なので、戦争体験や仕事、結婚のことなどいろんなことを乗り越えてきたその人の「今」にフォーカスしたいんです。取材する中では、辛かった過去の経験も、今だからこそ笑って話してくださる方もいました。そんな人生の先輩たちの話を聴けたことで、この先たとえどんなことがあっても、こんな風に笑える年の重ね方ができたら素敵だな、と思うようにもなりました。もう一つ、僕は生まれも育ちも小倉なんですが、この作品に携わって、自分の頭の中にある北九州マップの解像度があがったと感じました。たとえば地名は知ってても行ったことのない場所にも足を運んだし、水害で避難した話や、歌劇団があった話などを聴くうちに、今まで以上に北九州の人柄や土地柄が色濃くなっていったんです。



鵜飼 秋子さん

―お二人にとって忘れられない作品がある。昔、八幡にあった少女歌劇団。そこに所属していた富原千江子さんの記憶をもとに生まれた、「春夢（作／穴迫信一）」「少女歌劇団の話（作／鵜飼秋子）」という作品だ。当時、千江子さんはすでに病床にあり、偶然「Re:北九州の記憶」のことを知った娘さんがインタビュー協力者に応募した。ベッドに横たわる人からこぼれる記憶を拾い上げたのは、長年継続してきた企画でも初めてのことだったという。孫ほどの世代の劇作家二人に、記憶のバトンを渡した千江子さんは、上演の日を待たずにこの世を旅立った。その記憶は、舞台の上に、そして戯曲として、このまちに遺った。

人の「記憶」は、まちの「レガシー（遺産）」になる。「いや、そんな大げさな…」と、このまちの人たちは言うかもしれないけれど、北九州から発信される「Re:北九州の記憶」が、いつの日か普遍的な人々の記憶の物語として未来に遺っていくことが楽しみで仕方ない。まずはコロナ禍を乗り越えた、今年度の作品に注目したい。



©藤本彦 2017年度舞台写真



©藤本彦 2018年度舞台写真

©藤本彦 2016年度舞台写真



戯曲講座の様子



Re:北九州の記憶

2012年度から継続する市民共同創作企画。北九州に暮らす高齢者に、地元の若手劇作家たちがインタビューを行い、戯曲を執筆。出来上がった戯曲のリーディング公演または演劇公演を行ってきた。構成・演出は内藤裕敬氏（南河内万歳一座）。これまでに上演された戯曲集は劇場HPに公開中のほか、市内図書館などで閲覧可能。劇場のYouTubeチャンネルでは関連企画「よむ、記憶~オンライン編~」を公開中。

●公演情報
北九州芸術劇場＋市民共同創作リーディング
「Re:北九州の記憶」
2021/2/20（土）、21（日）小劇場
企画概要や公開動画はコチラから→

隣接する生涯学習センター棟には、
最大5人に分身できるスポットも！
探してみて下さい♪



分身の術!!



ネットで密かに話題になっている響ホールの中庭。
建物の構造上、こーんな分身撮影が可能なんです。
と言いつつ立入禁止。すみません。

Unnun Kannun!?

云云かんぬん

疑問?を深掘り&気付きでビックリ!
響ホールのトリビアをお届けします

響ホールのたからもの



ハープ

7本のペダルで音程を調整するので、優雅に見える演奏中も、足元は実は大忙し!?



チェンバロ

ふたの裏には、音楽を讃えるラテン語の格言が記されています。

謎の物体!?



エントランスにあるオブジェ。
作者はなんとあの名女優、
メリル・ストリープの旦那さま!!

エコなホール♪



普段は見えない響ホールの屋上は芝生が敷き詰められエコにひと役かってます。

地域とアートのステキな関係



左から響ホール 神田和範さん、北九州市立大学 手嶋亮太さん、八幡駅前開発（株）前田謙さん、北九州市立大学 内山悠理さん。



ブレストの様子。アーティストの自由な感性に触れ、学生たちもどんどんアイデアを出していく。



コンサートにて。パーカッショニスト野尻小矢佳さんが奏でる オーシャンドラム の音色 に興味津々。



受付や前説、上演中の演出サポートまで、コンサートの運営は大学生たちが担った。



この９月、新たに九州国際大学のメンバーを加え、今年度の企画検討 も始まった 。乞うご期待!

大学生とともに、地域でコンサートをつくる

もっとホールを地域に開くには？

2020年1月。響ホールでは子育て世代向けの「すくすくコンサート」が行われた。ふだんクラシック音楽との接点が少ない未就学の子ども、ママ、パパが楽しめる内容で、中心となって企画したのは、まちづくりグループ「ZELKOVA STYLE YAHATA」を構成する北九州市立大学の学生たちだ。

もっと地域に開かれ、幅広い人たちに親しみを感じてもらう機会を増やしたい。そう考えていた響ホールは、ホール近くのJICA九州で外国人との交流の実績があったZELKOVAとともにプロジェクトを立ち上げる。彼らとホールをつなぎハブとなることを買って出たのが、ふだんから地域の活性化に取り組み続けている八幡駅前開発（株）だ。

コンサートを一からつくり上げる楽しさと難しさ

与えられた問題を解くよりも、課題そのものを設定することのほうが、ずっと難しい。学生たちはどんなコンサートにするかを検討するため、まずは響ホールがある八幡東区の調査から始めた。その過程で、自然が多く文教地区でもあるため、子育て世代にとって魅力的なエリアだということが分かってきた。一方で、彼らはなかなかクラシックコンサートを気軽に楽しむことができないということも。そこで今回のコンサートは「子育て世代が楽しめるもの」を目指すことになった。

企画会議は「小さい頃に好きだったもの」を思い出すブレインストーミングから始められた。子どもがワクワクするものは？親が安心して参加するには？出演アーティストとともにあれこれ企画を検討した結果、「ほっとする場所」をテーマに、赤ちゃんがおなかの中にいる時に聞く音と近いと言われるオーシャンドラムを使ったり、子どもが自由に動けるスペースを確保したりと、家族がリラックスして音楽を楽しめるコンサートとなった。来場者からは「子どもが声を出したり動いたりしても大丈夫なイベントがあると助かります」という声に加え、学生のチャレンジへの応援も寄せられ、好評を得て終えることができた。

音楽で地域とつながる経験を

一からコンサートを企画・運営した経験を、プロジェクトメンバーの一人である手嶋亮太さんは「アーティストには、こんなふうに世界が見えているのか！と驚くことばかりでした」と話す。内山悠理さんは「自分たちが企画したものに、大勢の人が集まってくれるのが不思議な気分でした」と振り返る。

大学の4年間で地域と深く関わることができる機会は、実はそう多くない。地域をよく知り、よりよいまちをイメージしてアクションを起こし、地域の人たちと実際につながる。この経験は彼らにとってまたとない成長の機会となったに違いない。「すくすくコンサート」は、よりブラッシュアップして今年度も開催される予定だ。

文：浅野 佳子

STAGE

北九州芸術劇場

その他のラインアップ scan here →

MUSIC

北九州市立響ホール

その他のラインアップ scan here →

大人も一緒に子どもたちの劇場シリーズ2020

11/29(日) 一般発売

子どもと大人のためのダンス「日本昔ばなしのダンス」

世代問わず
みんなで楽しめる
ダンス表現の豊かさ!



DATA
●日程 1/16 (土)11:00・14:30 ●会場 中劇場(舞台上客席) ●演出・振付『かさじぞう』『てんぐのかくれみの』:近藤良平
『つるのおんがえし』:山口夏絵 ●料金 一般¥2500、子ども(3歳～中学生)¥1000

大人も一緒に子どもたちの劇場シリーズ2020

11/29(日) 一般発売

「ピーター&ザ・スターキャッチャー」

永遠の少年
「ピーター・パン」
誕生の秘密が明らかに



DATA
●日程 1/24(日)13:00 ●会場 中劇場 ●作 リック・エリス ●原作 デイヴ・バリー、リドリー・ピアスン ●音楽 ウェイン・バーカー ●翻訳 小宮山智津子 ●演出 ノゾエ征爾 ●出演 入野自由、豊原江理佳、宮崎吐夢、櫻井章喜 ほか ●料金 一般¥4500、子ども(小～中学生)¥1500、親子セット券¥5000

二兎社

12/6(日) 一般発売

「ザ・空気ver.3」

「メディアをめぐる空気」
シリーズ待望の
完結編!



DATA
●日程 2/4(木)19:00 ●会場 中劇場 ●作・演出 永井愛 ●出演 佐藤B作、和田正人、韓英恵、金子大地、神野三鈴 ●料金 一般¥4500

響ホールリサイタルシリーズ

12/10(木) 一般発売

カルテット・スピリタス[サクソフォン四重奏]

～SCENE MUSIC～
サクソフォンの魅力を
たっぷりと!



DATA
●日程 2/6(土)14:00 ●会場 響ホール ●曲目 モーツァルト:フィガロの結婚序曲、シフリン:燃えよドラゴンのテーマ ほか ●料金 一般¥3000、25歳以下¥2000 ＊当日¥500増

12/16(水)18:30
アナリーゼワークショップあり

響ホールリサイタルシリーズ

12/10(木) 一般発売

金子三勇士[ピアノ] ～日本デビュー10周年記念～

地域の高校生プラスと夢の共演
響ホールと歩んだ
5年の集大成!



DATA
●日程 2/27(土)14:00 ●会場 響ホール ●一部共演 北九州市立高等学校吹奏楽部 ●曲目 ショパン:夜想曲「遺作」、リスト:ラ・カンパネラ ほか ●料金 一般¥3000、25歳以下¥2000 ＊当日¥500増

1/21(木)18:30
アナリーゼワークショップあり

ONE COIN! 500

響ホール ワンコインコンサート

平日お昼の45分間、ワンコイン500円でクラシック音楽をカジュアルに楽しもう♪

12/3(木) 一般発売

vol.24 加藤直明[トロンボーン] ●日程 1/13(水)11:45

●会場 響ホール ●料金 ¥500

※掲載情報は10/28(水)現在の情報です。※公演日程など変更になる場合があります。
※公演に関する詳細や各種チケットの購入条件などにつきましてはHPをご覧ください。

ふらここから

575で感じる季節のいろどり

俳句＝村田もも子　イラスト＝刈屋さちよ

米袋よりも重たし炬燵猫



猫に関する季語って結構あるんです。猫の恋／恋猫／猫の妻(夫)／うかれ猫／孕み猫／猫の子は春の季語。冬の季語には竈猫／へっつい猫／灰猫／かじけ猫／炬燵猫など、どれもどことなくユーモラスですよね。猫への愛情が言葉から滲み出ているような。うちには猫が五匹いるんですが、不思議とみんな巨体になってしまいます…

PROFILE

村田もも子／古本や檸檬店主。檸檬句会運営。親の介護がはじまりました。仕事や家事との両立大変だし正直面倒くさいこと多いですが、新しい扉あけた感じに少しわくわくもしています。

刈屋さちよ／イラストレーター。2匹の黒猫とラジオを聴く日々。最近娘の描く絵がどんどん面白くなってきて楽しいです。

SNSで楽しむ 北九州芸術劇場 & 響ホール

北九州芸術劇場・響ホールのSNSでは、公演情報はもちろん、アーティスト活動情報、また毎日の何気ないつぶやきを配信中。いつでも気軽に舞台を感じる事ができる動画コンテンツもアップしています。ぜひチェックしてみてください!

北九州芸術劇場
KITAKYUSHU PERFORMING ARTS CENTER

Twitter　LINE

YouTube



2年目職員目線で劇場の色んな側面をお届け。空回りしつつも奮闘する姿になぜかほのぼのしてしまう!?

北九州市立 響ホール
HIBIKI HALL

2020 北九州国際音楽祭

Twitter　Twitter

INFORMATION 公演チケット取扱

❶オンラインチケット

https://www.e-get.jp/kimfes/pt/

❷電話(主催事業のみ)

北九州芸術劇場
TEL 093-562-8435
(10:00~18:00／土日祝休)

響ホール音楽事業課
TEL 093-663-6661
(9:00~18:00／土日祝休)

❸窓口

北九州芸術劇場プレイガイド
(リバーウォーク北九州5F Q-station内)
(平日 11:00~18:00、土日祝 10:00~18:00)

響ホール事務室
(9:00~18:00)

北九州芸術劇場
KITAKYUSHU PERFORMING ARTS CENTER

〒803-0812 北九州市小倉北区室町1丁目1-1-11
リバーウォーク北九州内
TEL 093-562-2655(10:00~18:00)



北九州市立 響ホール
HIBIKI HALL

〒805-0062 北九州市八幡東区平野1丁目1-1
国際村交流センター内
TEL 093-662-4010(9:00~18:00)



発行：(公財)北九州市芸術文化振興財団　編集：北九州芸術劇場、北九州市立響ホール　制作：(株)フリーランス　印刷：(株)ゼンリンプリンテックス　裏表紙撮影：田中紀彦(Studio Red Star)　デザイン：園川恵理(モビメント社)